

特 集

日本と比べて再発見！

フィリピンの文化・習慣

初めてフィリピンに来た頃のことを、皆さんは覚えていますか？
衣食住環境はもちろん、様々なイベントや生活マナーなど、フィリピン独自の文化や習慣にこれまで何度も出逢い、日本との違いや共通点を感じてこられたのではないのでしょうか。

今回の特集記事は、そんなフィリピンカルチャーを、編集スタッフの体験談とともに深く掘り下げてご紹介します。

フィリピンの冠婚葬祭や食文化を始め、逆に日本に住んでいるフィリピン人から見てびっくりした日本文化や習慣まで盛りだくさん！
在住歴が長い方も、来られてまだ間もない方も、フィリピンを再発見できること間違いなし！？

※本記事は 2022 年 2 月現在の情報です

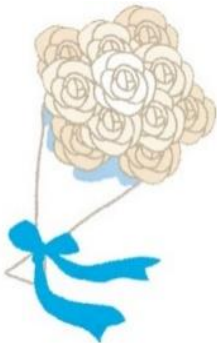
最新情報は公式サイト等でご確認ください

★目次★

- | | | |
|-----------------------------|-------|------|
| 1. フィリピンの結婚式 | | P.2 |
| 2. フィリピンのお葬式 | | P.6 |
| 3. フィリピンの大家族 Family reunion | | P.9 |
| 4. フィリピンの食文化 | | P.13 |
| 5. フィリピンのダンスカルチャー | | P.17 |
| 6. フィリピンの迷信 | | P.22 |
| 7. 日本に住むフィリピン人に聞いてみた！ | | P.24 |

1. フィリピンの結婚式

会社の女性スタッフの結婚式が 2021 年 12 月8日に行われました。コロナ禍のため、11 月初旬までは大勢の人が集まるイベントが禁止されていましたが、感染者数の減少に伴った制限緩和から、オミクロン株の感染拡大を迎えるまでの、本当に貴重な1ヶ月半の間に準備を整え、「よく開催に漕ぎつけた！よく頑張った！」と褒めてあげたい、そんな結婚式でした。



式場は Muntinlupa City, Sucat にある Our Lady of the Miraculous Medal National Shrine Parish というカトリック教会。

祝日の早朝、多くの礼拝参加者が一般の礼拝を終え立ち去った後、結婚式参加者のみとなり、厳かに始まりました。

新郎が壇上で待ち、新婦がお父様に伴われて入場するスタイルは、日本の教会での結婚式と同様と思われます。

式が進行し、神父の問いかけに対して誓いを立てる際、新郎新婦の肩口には“コード”と言われるロープが巻かれていました。



ここで、フィリピンの結婚式ではどのようなアイテムが使われているのか、またその意味についてご紹介します。





上部中央:キャンドルに
火を灯すマッチ、右:「コ
ード」と呼ばれるロープ

◆アイテムあれこれ

一般的に、各アイテムを使用した儀式
が執り行われます。

◎キャンドル:新郎新婦の脇に置かれた
燭台のろうそくにマッチを持った親族が火
を灯します。これは、神の存在を明らかに
する意味があるそうです。

◎コイン:13枚
のコインの入っ
た箱を新郎が

新婦に渡します。これはスペイン由来の
風習とされ、持参金を象徴化したもの
で、妻と家族の繁栄を約束する意味が
あるそうです。



将来の家族の繁栄
を誓う「コイン」

◎ベール:指輪の交換の後、ベールを持った親族が新郎新婦の肩
口にベールをかけ、夫婦が一つの世界に入ったことを示します。



ベールとコードをまとった新郎新婦

◎コード:白い紐の輪っかを8の字
にしたものを新郎と新婦の首から
肩口に掛けます。8の字は無限量
を意味し、互いに永遠の愛を誓い
ます。



◆Ninong and Ninang(ゴッドファーザーとゴッドマザー)

本来は、新郎新婦のそれぞれの両親の、更に両親(祖父母)を示しています。フィリピンの結婚式では、両親が主要後見人となりますが、2番目の後見人として、両家のおじいさん、おばあさんが役割を担います。但し、既にお亡くなりになっているケースもある上、婚姻登録用紙に最低2人以上が Witness(証人)として署名する必要があり、それらの立会人は“Ninong(ニノン)(ゴッドファーザー)” “Ninang(ニナン)(ゴッドマザー)”と呼ばれています。



上記の写真のように式に立ち会った年長の親類縁者の夫婦、友人、職場の上司などが、立会人として婚姻証明書に署名します。(私も Ninong として署名しました。)

立会人は、新郎新婦に人生の先達として、正しく導くことを役割として求められますが、正式な婚姻証明書に多くの立会人の署名が並ぶのには驚かされますね。

◆ドレスコード

フィリピンの結婚式に参列する際、ドレスコードを指定されることが多いです。

女性はドレス、男性はジャケット及びパンツ、“バロン”と呼ばれるフィリピンの伝統的なシャツなど、招待状に記載の上指定されます。



色は、女性は赤・えんじ色など、男性はブルー系が選ばれることが多いようですが、基本的には新郎新婦が決めるそうです。但し、新郎新婦と同様の白いドレスや燕尾の黒いタキシードやシャイニング・カラーのジャケットなど、主役より目立つものはNGとのことでした。

◆披露宴での伝統的なゲーム

新郎新婦の親族・友人が挨拶を行いながら、これまでの交流の思い出を語るスタイルはほぼ日本と同じでした。

特徴的だと思われるものに、“伝統的”に行われているというゲームがありました。Bride's garter や Wedding garter ゲームと呼ばれるもので、新郎が音楽に乗ってダンスしながら新婦の前まで行き、新婦の Wedding Dress をめくり、片足に巻かれた Garter を口でくわえて取る、というものです。



私が参加した結婚式では、別のゲームで負けた(又は勝った)男女1名ずつの独身の友人が、同じように Bride's garter ゲームを行いました。

これは、日本でも行われる Bouquet Toss と同じような意味も込められているようで、新郎が新婦の足から取った Garter を後ろ向きに投げる Garter Toss が行われる場合もあるようです。男女問わず明るくイベントを楽しむ、フィリピンの若者らしいゲームのように感じました。

(A・W)